

自己評価および外部評価結果結果

サンシャインあでらグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設建物内に掲示を行い、代表者や管理者が具体的な心得の説明を行っています。	明るく元気で、素直に行動し、生きるためのお手伝いをするという利用者本位の理念を抱き、その上倫理要綱により更に綿密な目標をもって運営している。集会の都度、お互いが確認し合い心得ている。	阿吽の呼吸も大切と思いますが、甘んじることなく、日々の実践の中で適切に伝える努力を継続される事に期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや小学校の運動会など行事へ出かけたり、避難訓練や納涼祭など施設の行事に地域の方にもご協力を頂いて交流をはかっています	地域の行事や小学校の運動会に招待をされ、参加し楽しんだり、施設の行事には地域の方々等の協力を得てお手伝い頂き、利用者地域住民との深い絆が得られる様努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や講習会、季節の行事に参加して頂いたり畑づくりなどを通じて御利用者様や職員と交流を行いながら、グループホームでの生活や認知症の方の支援について理解を深めて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、御利用者様の生活状況、サービスの実際等を報告して意見を頂いています。会議事録は職員全員に報告を行っています。	行政・地域代表・消防署・家族・民生委員と多くの職種の方に委員をお願いし、施設から提案・問題はもとより幅広い角度から意見を伺っている。得た課題は、全職員で精査し、利用者のサービス向上に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会の委員をお願いして意見を頂いています。御利用者様の出身地域の包括支援センターとも連携をはかっています。	定期的に施設の状況を報告し意見を求めている。また、出身地区の地域包括支援センターとの連携も密にしている。	行政関係機関との連携の構築には、継続的な報告・連絡・相談が大切だと思います。関係機関との連携をさらに推し進めて頂く事に期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体職員会議や、ミーティング等において周知をはかり厳守に取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみに行っています。	利用者が今迄歩んでこられた生活を尊重し、一切の拘束は禁止し、自由に生活して貰っている。問題が発生しても拘束せず、職員が本人の理解が得られるまで辛抱強くお世話している。しかし、職員の勤務状況により夜間だけは玄関に施錠している。	今後も理性的で科学的な対応を心掛けて下さい。又、継続的な研修と家族との状況認識の共有を重視して、より専門的なケアの対応を心掛けて頂く事を期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会議や、ミーティング等において周知をはかり虐待防止を徹底しています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で制度について触れる事はありますが職員の理解は十分ではありません。今後は課題として取り組んで行きたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時において、御本人様と御家族様に説明を行い、十分にご理解、ご納得頂けたか確認を行った後に契約を行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より御利用者様や御家族様と対話するように心がけています。また、入所契約を結ぶおりに苦情等の窓口について説明させて頂いています。	お世話をする中で利用者の状況を観察し、また意見を聞き、家族と面会時に必ず意見を交わすことに心掛け、得た情報は、週に3回行われるミーティングで検討し、法人の全体会議等に報告し改善に努めている。	アンケート結果から家族との関係性は良好と思います。しかし良好を継続する為にも、解りやすい形式での運営に関する家族・利用者への反映の方策を検討いただく事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議(月1回)を通じて意見の聴取をし反映させています。	毎月行われる会議や、職員から日常得た建設的な課題は顕著に受止め、地域に根差した施設運営に反映させている。	職員からの意見等反映する事は、やりがいに通じると考えます。今後も真摯な姿勢を継続して頂く事に期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	未だ十分とは言えないが会議を通じて、あるいは職場の組織体制の見直しを行いながら環境、条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の業務目標を自発的に機会を設けて管理者側に提示を求める段階には至っていないがグループホームの本質とは何かを問いグループホームケアの職員として問題意識を持たせる様に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	信頼できる同業者についてはその都度意見を聞いたり考えを述べたり相談をしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に御本人様と面談を行い御本人様の思いを伺い安心して頂ける様に配慮し関係づくりに努めています。可能であれば見学して頂き施設の景観や環境を観て頂いています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に御家族様と面談を行い御家族様の思いを伺い安心して頂ける様に配慮し関係づくりに努めています。可能であれば見学して頂き施設の景観や環境を見て頂いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や御家族様、各関係者と面談を行い情報を収集し、御本人様や御家族様が安心して生活して頂ける様に必要な支援を行えるよう対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いながら、共に支え合い暮らす家族の様な関係を築いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連携をはかり、御本人様と御家族様が共に触れ合い、時間を共有して頂ける様に配慮しながら御家族様と共にご本人様を支援させて頂いています。ご自宅で御家族とひとときを過ごして頂けるように支援したり、気楽に施設へ訪問して頂き、ゆっくりと共に過ごして頂ける様に努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや行事に出かけたり、御家族様と連携をはかり、ご自宅で御家族と共に知人、近隣の人等とひとときを過ごして頂けるように支援したり、気楽に施設へ訪問して頂き、ゆっくりと共に過ごして頂ける様に努めています。	施設の所在する地域のみならず、利用者の出身地域も含め、その地域のお祭りや行事に参加するようにしている。家族との連携を図り、時には外泊して自宅で家族と共に過ごして貰っている。また家族等へ施設訪問をして頂き、団楽のひと時を得ている。	自宅に戻る機会・馴染みな場所がある事は喜ばしい事です。受け入れ可能な家族・馴染みの知人と連携を図りながら今後も継続できる事を期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を把握させて頂き、共に暮らす仲間として互に関わり合い、お互いの話を聞いたり支え助け合って生活を営んで頂けるよう支援に努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談等を受け支援させて頂く事を伝えています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中やモニタリングを行う時に御本人様や御家族様から意向を伺い把握する様に努めている。また、意向の確認が困難な時には本人本位に検討を行っています。	日々支援する中で利用者の意向を把握し、また面会時等に家族の考え方も聴取し、利用者の支援策に繋げている。意思表示の困難な利用者には、主治医等の意見も含め、職員全体で検討を加え、支援に繋げている。	今後も本人本位で利用者ひとり一人を大切に、生活の中からの意向把握への実践に取り組んで下さい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前も入所後も御本人様、御家族様、各関係者より、出来るだけ対話する機会を多く持つように心がけ情報を頂き生活歴等の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様と関わりながら、その方の生活状態や身体状態など把握に努め、得られた情報はミーティング等で職員間で共有し連携をはかっています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中やモニタリングを行う時に御本人様や御家族様から意向を伺い把握する様に努め、可能であれば、御家族様や必要な関係者を含めた担当者会議を開催し介護計画書を作成するように努めています。	利用者や家族から、今迄の生い立ちや性格を聞き、嘱託医の指導も考慮し、職員全体で介護計画を確立している。改善を要する時は利用者や家族に必ず理解を求めている。家族同伴で面接することで利用者には安堵感が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様についての毎日の情報を個別記録に記載すると共にモニタリングやミーティング等で職員間で共有をはかり介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中やモニタリングを行う時に御本人様や御家族様と対話する機会を多く持つように努め現状と課題の把握に努めサービスの多機能化や個別に柔軟な支援が行えるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方や町村の担当者、木曾広域連合の担当者と連携を図り地域資源の把握に努め、御本人様らしく、安全で豊かな暮らしを楽しんでいただけるよう支援に努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者様、御家族様の意向に副いながら受診サービスを行い、日々主治医や医療機関と連携をはかり、定期受診以外の特変時にも主治医の指示を頂いて、安心した生活を送って頂けるように支援しています。	主治医の他に、六個所の協力医院をもち定期的に診察を受けている、今迄のかかりつけ医も尊重し、利用者に安心感を与えている。医療機関とは綿密な連携を図り、利用者が安定した生活ができるように努力している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に伝え主治医の指示や受診を受けられる様に支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者様の面会時や電話にて病院関係者と細やかに何回も連絡を取って連携をはかり、得られた情報についてはご家族様や主治医と共有し連携はかっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用申し込み時や入所契約時にご利用者様、御家族様と話し合いを行い意向を確認し、御家族様、主治医、医療機関、各関係機関と連携をはかり支援できるように努めています。	入所契約時に、重篤な状態に陥った時や終末期のあり方について、利用者及び家族に説明し、意向を確認している。万が一の時には主治医・関係機関・家族・本人等と連携を図りながら、利用者が安心して過ごせる支援を図ろうと心得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身につけるために研修を実施していますが今後の課題として定期的な訓練を行うようにしたいと思います。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、消防署、地域の消防団、地域住民等の協力を頂き連携をはかっています。	年に二回の防災訓練を消防署・地域の消防団・地域住民を交え実施している。特に住民の皆様には、介助の方法や車椅子等の扱い方まで細々と体験して貰うと共に施設の内容まで見て貰い、利用者との交流も深めている。	夜間は勤務職員体制が少ないので、夜間での訓練を行い利用者が安全に避難できる方策を体験して貰うこと、避難経路を表示しておくことも希望致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し個別に対応し土地柄もあり、親しみのある生活に密着した言葉かけを行なっています。	生活空間のプライバシーは厳守されている。利用者の人格行動は尊重され、利用者は伸び伸びと生活している。言葉使いは地域に即応した馴染みが深く優しい言葉で呼び掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で対話を重ね、関わりあう中で思いや希望を伺ったり、出来る限り自己決定をして頂けるよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れは出来ていますが、日々の暮らしの中で対話を重ね、関わりあう中で思いや希望を伺い個別の支援を心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な物の買い物等は同行して支援を行うなど、一緒に用意させて頂いています。理美容に関しても希望を伺い個別で対応しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事づくり、盛り付け、片づけ等にご利用者様と職員が関わり合い一緒に行っています。個々の身体状況や病気を把握し個別で支援できるよう努めています。	食事メニューは利用者の意見を取り入れ、時々買い物にも同伴し食材選びに参加して貰っている。畑にある季節の野菜は殆ど利用者が採り、利用者の身体的精神的状態のよい利用者は、食事作り盛り付け、後片付け等と職員と共にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行うとともに個々の身体状況や嗜好、習慣を把握し一人ひとりに合わせた支援に努めています。状態に応じては主治医や御家族様と連携をはかっております。食事やお茶以外の時でも自由に好きな飲み物を飲んで頂いています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアの実施や声かけを行い、必要な方には歯科受診をしております。茶殻を煮出した液を利用して口腔ケアやうがいに利用しています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し状況を把握すると共に自尊心や羞恥心に配慮しながら個別の対応を行い支援しています。	本人の気持ち・自尊心・羞恥心に注意を払いながらデータを活用しながら支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の豆乳や手作りのヨーグルトの提供、水分補給を行い、出来るだけ野菜の多い食事や果物等を提供させて頂けるように心がけ、日々、軽体を動かすなど予防に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況を把握しながら朝風呂等本人の気持ちを大切に気持ち良く入浴して頂けるよう配慮しています。	利用者の希望により入浴できる体制を整えている。訪問時、浴室から上がった車椅子の利用者は気持ち良かったとつやつやした姿で喜んでいた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング、畳コーナー、サンルーム、居室等で個々に応じて落ちついて安心して休んで頂ける場所で自由に休息して頂けるように配慮しております。状況に応じ照明や室温の調整を行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬が分かる様にファイルに綴っており、いつでも確認できるようにしています。内服内容に変更があった時は、記録と申し送りにて全職員が把握できるようにしています。日々、状態観察を行って変化への気づきを行えるよう努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様、御家族様、各関係者より情報を頂き生活歴等の把握を行ったり、ご利用者様と関わりながら、その方の趣味や嗜好品、生活状態や身体状態などの把握に努め日々、張り合いや楽しみを持った暮らしを営んで頂けるよう支援に努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況や天候を考慮しながら、希望に副った個別の対応を心がけています。年間を通じて桜、つつじ、紅葉などを見に出かけたり、地域のイベントに出かけたりドライブなど支援をしています。	全体的には季節の風情に絡みリクレーション(花見等)を計画し楽しんでいる。個人的にも行きたい要望がだされると、思い出懐かしい所にドライブしている。地域のイベントには必ず参加し、散歩にも心掛けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり個別の対応をしています。外出時等で支払を行う際は職員が付き添い確認を行いながら、御本人様に関わって頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様と連携をはかりながら、個別に自由に行って頂いています。荷物が届いた時には御本人様と一緒に連絡させて頂いています。携帯電話を所持されている方もいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において、利用者様が穏やかに、安心して暮らして頂けるように配慮しています。柔らかな灯りや優しい色調、季節や時間、状況に応じて照明や室温、湿度の調整を行っています。季節に応じて装飾品や生け花を飾ったり菖蒲湯に入ってもらったりしています。	共用空間には思い出の写真が飾られ、手芸作品も展示されている。利用者が行事写真を見て思い出を語ってくれた。食堂では大型テレビを見ながら、職員と団欒のひと時を過ごしている。大きな窓で採光は充分だが、日差しが強い時の為に工夫がなされていた。柔らかい照明が精神的に安らぎを与えてくれる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにはソファがあり、畳コーナーやサンルームのテーブルと腰掛けで自由に思い思いに過ごして頂いています。それぞれの場所や居室で気の合う人同士語らいをされたりして過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様と連携をはかり、御利用者様の馴染みのある生活用品等を使用して頂いたりしながら御家族様と御利用者様で自由に部屋づくりをして頂いております。	自室には磨きのかかった古い座卓・筆筒が置かれ、壁には時々の写真が飾られている。部屋の柔らかい光の照明が一日の疲れを癒してくれるという。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の暮らしの中で対話を重ね、関わりあう中で現在の身体状況の把握を行い職員間で共有し、ご利用様が穏やかで、自信を持って安全に生活して頂ける様に支援に努めています。		